

平成 23 年度 第 1 回 公社等経営評価委員会 議事要旨

1 日 時：平成 23 年 8 月 30 日（火）10：00～12：00

2 場 所：兵庫県公館 第 2 会議室

3 出席者：

(1) 委員側

佐竹委員長、清水委員、田中委員、前田委員、茂木立委員、吉田委員

(2) 事務局

企画県民部長、企画財政局長、人事課長、新行政課長、財政課副課長

4 議事要旨

(1) 平成 23 年度公社等経営評価委員会報告案を協議するため、事務局側による団体の平成 22 年度の取組状況及びその評価について説明後、意見交換。主な協議内容は以下のとおり。

(公財)ひょうご震災記念 21 世紀研究機構

人と防災未来センターにおける「ひと未来館」の廃止後のスペースについて、専門的な防災教育の支援、関係大学との連携強化のため有効活用を図るとあるが、進捗状況として未だ活用しきれていないところがあるならば、評価において「取り組まれている」ではなく「取り組むべき」との表現にしていきたい。

シンクタンク機能の見直しについて、科学研究費補助金等外部資金の導入に取り組むこととの記載があるが、その獲得のためにどれだけ努力しているのかということも重要であるので、応募率などを記載していただきたい。

民間会社から研究員の受け入れを行っていることにより人件費の抑制につながっているのなら、そのことがわかるように記載していただきたい。

(公財)兵庫県青少年本部

「こころ豊かな人づくり 500 人委員会」について、どのように見直したのかがわかりにくい。運営主体を団体から委員会 OB 会等で構成する実行委員会に移行したのならば、「自主的な運営への移行」といった表現で記載していただきたい。

(財)兵庫県健康財団

健康道場について、平成 22 年度の収支が赤字であったにも関わらず、その点の記載がないのは不十分であるので、記載していただきたい。

(公財)ひょうご科学技術協会

Spring-8 の利用促進について、2 企業が新たに活用した旨の記載であるが、このことにより中堅・中小企業の利用が拡大しているとの評価が可能なのか。目標がなければ評価は難しい。また、この記載では利用企業が大企業なのか、それ以外なのかが不明である。

基本財産 42 億円のうち、40 億円を運用財産化したことについて、このことで目的を達成したということではなく、さらなる弾力化等含めて引き続き検討するべき

旨の記載をしていただきたい。

(公財)兵庫県国際交流協会

海外事務所について、県から海外へ進出している企業を支援する体制を整備するなど、時代にあった事務所のあり方を具体的に検討していくべき。

兵庫みどり公社

分収造林事業について、分収割合の変更契約にかかる交渉の進捗状況が明確にわかるよう記載していただきたい。

(財)ひょうご環境創造協会

但馬最終処分場手数料収益が搬入量の減により収支が悪化していることについて、今後の公益法人移行に向けては事業計画の見直しも含めた対応に留意する必要がある。

(公財)兵庫県まちづくり技術センター

平成 22 年度の収支が赤字になっていることについて、原因を分析するために複数年度の収支を明確にしていただきたい。

兵庫県道路公社

将来交通量の見直しにより、今後の収支が悪化する可能性があるため、その旨を踏まえた記載にするべき。

(財)兵庫県園芸・公園協会

フラワーセンターにおいては施設の老朽化等の理由により、来園者数が低下していることについて、今後の具体的な対応策などを明確にしていただきたい。

その他全般的なこと

県 OB 職員について、プロパー職員との公平性を妨げない範囲での活用との記載とすべき。また、県 OB 職員の活用は専門知識を持った職員の活用であり、また人件費の抑制につながる旨の記載もすべき。

総じて団体における自己評価は甘い。理由がどうであれ、赤字決算を出したのならば、民間では経営陣が責任をとる。今後の改革を進めるにあたり、経営陣を含めた職員の意識改革が必要である。

団体における資産運用については、そもそもその運用の是非も含めて今後のあり方を検討するとともに、県としても引き続き適正にチェックをしていくべき。

(2) 今後、重点的に点検を要する団体（重点点検団体）を以下のとおり選定し、次回以降の委員会にて個別ヒヤリングを実施することを確認

重点点検団体

(公財)ひょうご震災記念 21 世紀研究機構

(公財)兵庫県生きがい創造協会

(財)兵庫県勤労福祉協会

(財)ひょうご環境創造協会

新西宮ヨットハーバー(株)

(財)兵庫県園芸・公園協会